

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1						電子カルテシステム	
1	5					クリニカルパス	
1	5	1				基本機能	
1	5	1	1			画面表現	
1	5	1	1	1		縦軸をオーダ種別や経過表項目、横軸を日付としたカレンダー形式でオーバービューできること。	○
1	5	1	1	2		オーバービュー表示時に、表示レンジを3日/1週間/2週間/4週間に切り替えられること。	○
1	5	1	1	3		限られた画面内に膨大な情報を有するパス・診療カレンダーのスクロールによる煩雑さを無くするため、ワンクリックで縦方向の項目へジャンプができること。 また、カレンダーからの日付選択による横方向へのジャンプ、およびワンクリックで横方向のスクロールが行えること。	○
1	5	1	1	4		パス上に「在院日数」、「術後日数」、「妊娠週数／産褥日数」、「生後日数」、「D P C 経過日数」などの経過日数を自動計算し、表示ができること。	○
1	5	1	1	5		手術や検査などのイベント日について、1日を複数の区分に分割することができること。 (手術日であれば、術前・術後の2区分など)	○
1	5	1	1	6		パス画面上で、直接分割数を変更できること。	○
1	5	1	1	7		分割区分は、1日あたり9個まで設定できること。	○
1	5	1	1	8		分割区分の名称は、分割区分毎に設定できること。	○
1	5	1	1	9		分割区分の名称は、パス画面上で、直接変更できること。	○
1	5	1	1	10		分割区分毎に、開始時間を割り当てることができること。	○
1	5	1	1	11		分割区分へ開始時間を割り当てるときは、個別に設定するだけでなく、マスクで設定した差分時間に応じて、自動的な割り当てができること。	
1	5	1	1	12		表示する情報がない列は、表示／非表示が切り替えられること。	
1	5	1	1	13		パスで事前に計画されたオーダと、追加で発行したオーダが背景色により区別できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	1	1	14		以下のオーダのステータスを、アイコンにより区別できること。 ・未発行 ・発行済み(未実施) ・指示受け ・指示確認済み ・一部実施 ・実施済み	○
1	5	1	1	15		チェックがかったオーダは、文字色により区別できること。	
1	5	1	1	16		予約未取得のオーダは、アイコンにより区別できること。	○
1	5	1	1	17		レポート・検査結果が返ってきたオーダは、アイコンにより区別できること。	
1	5	1	1	18		当日発行されたオーダおよび3時間以内に発行されたオーダは、アイコンにより区別できること。	
1	5	1	2			基本機能	
1	5	1	2	1		適用開始日を選択して、患者にパスを適用できること。	○
1	5	1	2	2		パスを適用する際、パス適用除外日（土日など）を容易に設定できること。	○
1	5	1	2	3		パスの基本情報（名称・コード・バージョン・コメント）を設定・参照できること。	○
1	5	1	2	4		患者へパスを適用する時に、パスに含まれるオーダをまとめて発行できること。	○
1	5	1	2	5		患者へパスを適用する時に、DPCオーダを連携して発行できること。	
1	5	1	2	6		患者へのパス適用後、パス上でオーダ情報の追加・修正・中止ができること。	○
1	5	1	2	7		患者へのパス適用後、パス上でドラック&ドロップの操作により、オーダの実施予定日を変更できること。	○
1	5	1	2	8		患者へのパス適用後、パス上でコピー＆ペーストの操作により、新規にオーダが作成できること。	○
1	5	1	2	9		オーダを複数選択し、一括で削除できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	1	2	10		パスの編集作業において、展開したオーダを複数選択し、一括削除ができること。	○
1	5	1	2	11		指定した日付以降のオーダの実施予定日を、一括して1日分未来に変更できること。	○
1	5	1	2	12		指定した日付に実施する予定で削除可能なオーダを、一括して削除できること。 同時に、指定した日付以降のオーダの実施予定日を、一括して1日分過去に変更できること。	○
1	5	1	2	13		パス上からテンプレート文書を起動し、入力できること。	○
1	5	1	2	14		パス上から職種に対応した記録を記載できること。	○
1	5	1	2	15		バイタル情報をグラフで表示できること。	○
1	5	1	2	16		パス画面上に検査結果を表示できること。	○
1	5	1	2	17		クリニカルパスの画面から指示受けができること。	
1	5	1	2	18		クリニカルパスの画面から指示確認ができること。	○
1	5	1	2	19		クリニカルパスの画面から実施入力ができること。	○
1	5	1	2	20		パス上から、観察・測定結果・バイタル情報の入力ができること。入力した情報は経過表と共有し、相互に参照・入力できること。	○
1	5	1	2	21		パス・レジメン作成時に、観察・測定項目の有効期間を設定できること。	○
1	5	1	2	22		観察項目・測定項目と連携している看護指示・指示簿指示オーダを発行すると、連携する観察項目・測定項目が、自動的にパスカレンダー上に追加されること。	○
1	5	1	2	23		観察項目・測定項目と連携している看護指示・指示簿指示オーダを発行すると、看護指示・指示簿指示オーダの用法に応じて、連携する観察項目・測定項目行にオーダ内容が表示されること。	○
1	5	1	2	24		中分類単位にメモを登録し、表示できること。	○
1	5	1	2	25		削除済みオーダを参照できること。	○
1	5	1	2	26		複数のパスを同時に適用できること。	○

別紙1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	1	2	27		1日単位でオーダ情報を表示できること。また、印刷できること。	○
1	5	1	2	28		パス適用している患者はカルテを開くと識別できること。 また、パスの状況（適用中、終了前、終了日当日、適用期間超過）が把握できること。	○
1	5	1	2	29		経過表と連携し、パスで管理している観察項目以外に患者個別に必要な観察項目を取り込めること。また、取り込んだ観察項目はパスの項目と識別できること。	○
1	5	1	2	30		パス適用時に追加、修正したオーダ等については承認者が承認する際に一括承認とは別に承認が可能であること。	
1	5	1	3			パス管理	
1	5	1	3	1		適用除外基準が設定されている場合、評価するまでパスの適用ができないよう制御できること。	
1	5	1	3	2		アウトカムの管理機能があること。	○
1	5	1	3	3		アウトカムマスタについては、日本クリニカルパス学会が提供しているBOM（Basic Outcome Master）に対応できること。	○
1	5	1	3	4		達成目標としてのアウトカムおよび、アウトカムの客観的達成基準としてのアセスメントが登録・管理できること。	○
1	5	1	3	5		アウトカムは毎日設定できること。	○
1	5	1	3	6		アウトカムは、1日の中で、分割区分毎、または複数分割区分をまたいで設定できること。	○
1	5	1	3	7		適応除外基準、アウトカム、終了基準を一画面で表示し、一連の評価過程を確認できること。	○
1	5	1	3	8		アウトカム評価時には、アセスメントの達成状況を確認しながら、達成／未達成を判定できること。	○
1	5	1	3	9		アセスメントの達成／未達成を評価できること。	○
1	5	1	3	10		アセスメントの評価基準として、観察・測定結果・検査結果の項目および判定式を設定できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	1	3	11		アセスメントの評価基準として、観察・測定結果・検査結果が設定されている場合、結果値が入力されていれば、アセスメント評価画面に表示されること。 また、判定式によって異常値と判定された結果値は、赤字で表示されること。	○
1	5	1	3	12		アウトカムに対して、バリエーションを登録できること。	○
1	5	1	3	13		アウトカム評価時に、未達成と判定すると、確認メッセージを表示し、バリエーション登録画面を自動起動すること。	○
1	5	1	3	14		オーダに対してバリエーションを登録できること。	○
1	5	1	3	15		バリエーションの登録が必要なオーダをチェックできること。	
1	5	1	3	16		オーダに対してバリエーションを登録する場合は、正／負のバリエーション区分を登録できること。	○
1	5	1	3	17		オーダに対してバリエーションを登録する場合は、バリエーション内容を登録できること。	○
1	5	1	3	18		入力済みのバリエーション内容を、複写・貼付できること。	
1	5	1	3	19		オーダおよびアウトカムに対してバリエーションを登録する際に、バリエーション理由を登録できること。	○
1	5	1	3	20		バリエーション内容およびバリエーション理由を登録するとき、複数キーワードによる検索ができること。	○
1	5	1	3	21		アウトカム・アセスメント・バリエーション内容・バリエーション理由はコードが付与され、統計として活用できること。	○
1	5	1	3	22		オーダおよびアウトカムに対してバリエーションを登録するとき、バリエーション種類（逸脱/中変動/小変動）を登録できること。	○
1	5	1	3	23		登録されたアウトカムやバリエーションの内容を参照しながら、パスの評価ができること。	○
1	5	1	3	24		終了基準を評価すると、パスの適用を終了させることができること。	○
1	5	1	4			パスシート	
1	5	1	4	1		終了基準の評価とは別に、パスの適用結果を評価できること。	○
1	5	1	4	2		パスの内容を反映させて、自動的にパスシートを作成できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	1	4	3		パス評価の入力や終了基準の判定の取り消しができ、再度評価入力ができること。	○
1	5	1	4	4		パスシートは、医療者用/患者用両方を作成できること。	○
1	5	1	4	5		患者用のパスシートは、患者にわかりやすい文言に変換して作成できること。	○
1	5	1	4	6		患者用のパスシートは、実際に適用するパスの内容を反映して作成できること。	○
1	5	1	4	7		パスシートを入院診療計画書として使用できること。	○
1	5	1				基本機能	
1	5	1	5	1		パスに食事摂取量を表示できること。また、パス上で直接入力ができ、入力した情報は経過表と共有し相互に参照・入力できること。	○
1	5	1	5	2		未入院の患者に食事オーダーを含むパスを適用したときに、食事オーダーを保留状態にして、入院時に一括展開できること。	○
1	5	1	5	3		入院オーダーの食事コメントを、パスを適用したときに一括でパスに含まれた食事オーダーのコメントに追加できること。	
1	5	2				パス作成・メンテナンス	
1	5	2	1			パス作成・メンテナンス	
1	5	2	1	1		適応除外基準/終了基準を選択登録できること。	○
1	5	2	1	2		新規にパスマスタを作成する時に、他のパスを複写して作成できること。	○
1	5	2	1	3		パスとして作成された内容は、アウトカムやバリエーションの管理をしないオーダーセットとしても使用できること。	○
1	5	2	1	4		パス毎に、適応病名を設定できること。	
1	5	2	1	5		縦軸（登録できる情報の種別）は、パスマスタの編集画面で編集できること。	○
1	5	2	1	6		標準で提供している在院日数などの横軸項目に加え、任意に経過日数を表示するための横軸項目を追加できること。	
1	5	2	1	7		アウトカムおよびアセスメントは、事前に登録されたマスタから選択することにより、登録できること。	○
1	5	2	1	8		パスを「共通」、「科別」にフォルダ分けして管理できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	2	1	9		作成中のパスを「作成中」、「作成済」、「承認済」の3段階で管理できること。	
1	5	2	1	10		パスの作成・承認権限は、職種毎に設定できること。	○
1	5	2	2			セット・パス内コード検索・更新	
1	5	2	2	1		指定した薬剤・材料を含むセットおよびパスの一覧を作成できること。	○
1	5	2	2	2		セットおよびパス内に含まれる指定した薬剤・材料を、一括で置換できること。	○
1	5	2	2	3		薬剤・材料を一括更新した際の操作ログを管理・参照できること。	○
1	5	2	2	4		電子カルテ上で利用するセットの情報を流用してパス作成ができること。	○
1	5	3				プロセスパス	
1	5	3	1			プロセスパス	
1	5	3	1	1		患者状態や診療イベントなどの単位で作成したプロセスを組み合わせ、1つのパスを構成することができること。	○
1	5	3	1	2		条件に応じてプロセスを分岐させるパスが作成できること。	○
1	5	3	1	3		パス作成時にプロセス情報を表示・確認ができること。	○
1	5	3	1	4		パス作成時に、関連するプロセス情報の追加・編集ができること。	○
1	5	3	1	5		パス作成時に、他のパスに含まれるプロセスを複写して、新規にプロセスが作成できること。	○
1	5	3	1	6		パス適用時にプロセス情報を表示・確認ができること。	○
1	5	3	1	7		プロセス毎に、適用タイミングを選択できること。	○
1	5	3	1	8		予定よりも早くプロセスを開始する時、直前のプロセスと重複した期間に発行された、あるいはこれから発行される不要なオーダが削除できること。	
1	5	4				患者パス適用	
1	5	4	1			患者パス適用一覧	
1	5	4	1	1		パスの適用症例を一覧で表示できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	4	1	2		表示対象を、診療科・病棟・パス名称・期間(入院中／入院日／退院日／適用期間)・対象種別(パスまたはレジメン・入外)・適用医師で絞り込めること。	○
1	5	4	1	3		上記絞り込み条件は、利用者毎に保存できること。	○
1	5	4	1	4		一覧には、以下の項目を表示すること。 ・患者ID ・患者氏名 ・性別 ・年齢 ・パス管理コード ・パス名称 ・パスバージョン ・適用開始日 ・適用終了予定日 ・適用終了日 ・パス評価区分 ・アウトカム評価状態(未評価あり/評価済み) ・予定プロセス ・診療科 ・病棟	○
1	5	4	1	5		選択したパス適用症例について、パスカレンダーを表示できること。	
1	5	4	1	6		選択したパス適用症例について、パス評価画面を表示できること。	
1	5	4	1	7		選択したパス適用症例について、カルテ画面を表示できること。	
1	5	4	1	8		選択したパス適用症例について、パス作成画面を表示できること。	
1	5	5				パス統計	
1	5	5	1			パス統計機能	
1	5	5	1	1		電子カルテシステムから下記統計を表示できること。 ・診療科・病棟別のパス適用率 ・パスごとの適用件数、利用率、平均在院日数 ・バリエーション発生件数・発生率 ・オールバリエーション統計	○
1	5	5	1	2		複数のプロセスで構成されるパスについて、プロセス毎の適用率を集計できること。	○
1	5	5	1	3		統計画面からパスを選択し、そのパスを適用中の患者一覧ヘドリルダウンできること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
1	5	5	1	4		パスをダブルクリックすることでパスカレンダーを表示できること。	
1	5	5	1	5		パス毎、プロセス毎にバリエーション理由を集計できること。	○
1	5	5	2			オールバリエーション統計	
1	5	5	2	1		統計対象となるパスが複数選択できること。	○
1	5	5	2	2		統計対象のパスの適用症例毎に、統計対象とするか選択できること。	○
1	5	5	2	3		バリエーション理由毎に、設定されたバリエーション内容が一覧表示できること	○
1	5	5	2	4		バリエーション理由毎・バリエーション内容毎に、バリエーションが発生した相対日と登録件数が集計できること。	○
1	5	5	2	5		バリエーション理由毎・バリエーション内容毎・バリエーション発生日毎に、適用症例の一覧が表示できること。	○
1	5	5	2	6		バリエーション登録された内容は、CSV形式で出力できること。	○
1	5	6				患者説明	
1	5	6	1			患者説明用資料印刷機能	
1	5	6	1	1		パス作成時にパスに紐づく文書類を登録することができること。	○
1	5	6	1	2		パス適用時に患者説明要資料に印字される文言は事前に登録できること。	○